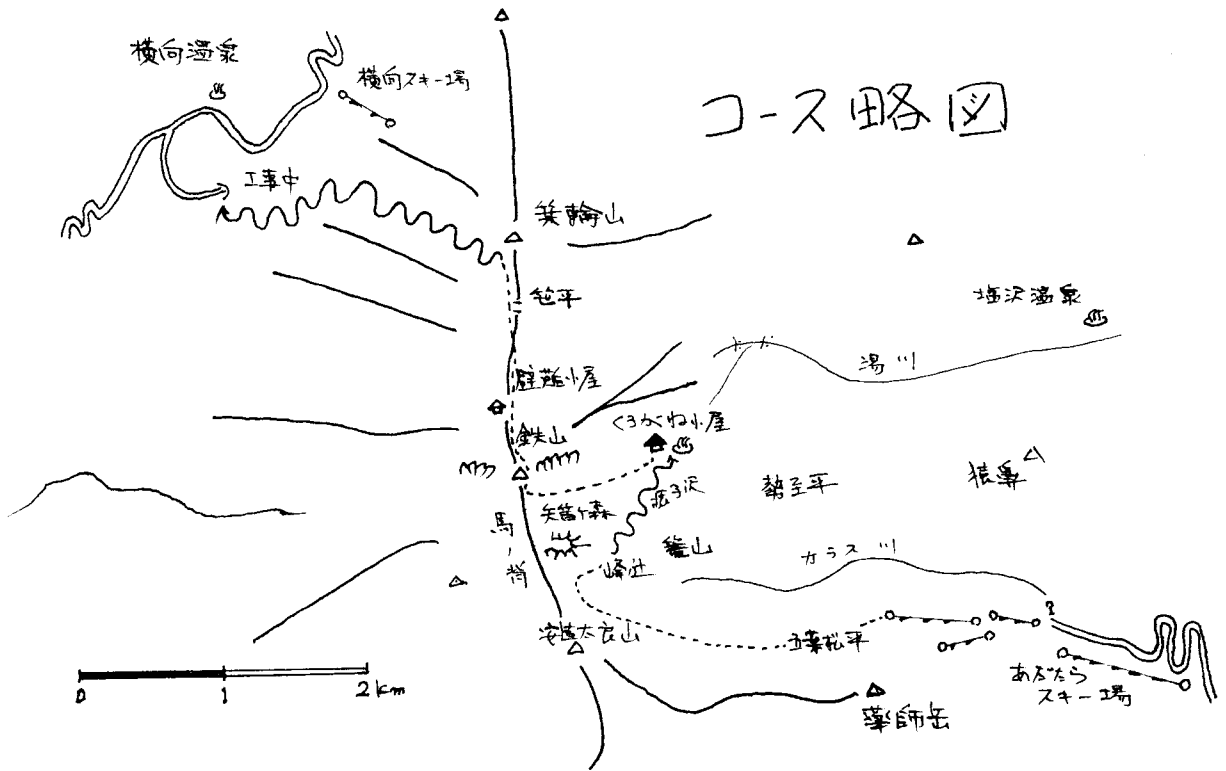


# 安達太良山 から 横向温泉 へ

1989. 2. 10 ~ 2. 11  
 L, 田中 蔵田 手塚 白沢 岩崎 佐藤(正) 鈴木 計7名



駅員に起こされるまで、郡山駅の構内で仮眠する。

一番列車で二本松へ、そこから今時めずらしい車掌さん付きのバスでスキー場へ、リフト終点からシールを付けて、五葉松平への急斜面を登る。

あとは沢筋を詰める。登りより滑りに使いたい斜面である。視界が悪く、肩に上がると、シュカブラ状、風で雪も少なく、カラス川の源流にあたる部分をトラバース気味に峰の辻へ出る。

粉雪にはほど遠く、重めの雪を思い通りに滑りにかかる。振子沢を滑って、くろがね小屋に到着。

ひと休みして、まだ休むという岩崎さんを置いて、偵察がてら鉄山をめざして登ってみる。稲妻のような電光石火の登りだが、午前中の歩きの後だけに、ちとしんどい。稜線は風が強い。

一滑りで降りてしまうが、穴ぼこに落ちて死ぬ人もある処だけに、慎重に滑る。

小屋は湯も食事も豊富で暖かい。

翌日は、天候悪いが出発。鉄山は、ツボ足で、ガスが一段と濃く風もある。

再び、シールを付けたまま、平らになった稜線を歩き出す。

右側に降りすぎないように気をつけながら、ほぼ真北へ。

木の指導標は字が判読できず、それらしい方向へ行くと、急に下降する。右も左も行けそうだが、視界が悪く先が読めない。

真っ直ぐが、方向としては合ってるが、あまりにも急下降すぎて自信がなくなってしまう。暫くウロウロするが、このまましててもしょうがないので、引き返すことにする。

確認できなかった鉄山の避難小屋を見つけた。雪で簡単に開けられそうもなかったので、外で風を避けて休む。

方向は間違いないので、さっきの夏道どうしの径より左寄りの、ポールの標識を頼りに進む。迷った急降下の場所はやはり夏道のように、左側から、その下の笹平に出る。ササやシャクナゲのようなものに雪が吹き溜まりになってウネリのように続いており、ほんとうに歩きにくい。ひたすら、トラバースで右の箕輪山らしい山を意識しながら進む。

そろそろ、いいんではないかという声に甘んじて、尾根らしき処を滑りにかかる。晴れ出すというか、幾分視界が効いてくる。

横向スキー場へのコースは、もう一つ先の尾根であった。しかし、左下の斜面に、ポールのようなものが見える。時間からいって、もう左の道路をめざして降りて行ってもいい訳で、少し戻っての尾根コース、沢筋コース、もう一つ先の尾根コース、そのまた先の沢コースと、どれも良さそうだが、いまの尾根を少し滑って、左の沢筋へ降りることにする。

新雪のルンルン滑降はできないが、まっまっ楽しい、予定外のコース滑降となる。林間に入り、傾斜も緩くなると、林道滑降となり、遂道工事の現場に出た。

人がいたので尋ねる。「ここは何処、私は誰〜れ？」そこまで聞かなかったが、新設の道路づたいに滑って行けば、横向温泉に出られる。

タクシーを呼んで、来るまでの間に温泉に入る人、外で片付けしながら待つ人。

沼尻から、山越えで直接、郡山にでても時間的に変わりないとタクシーの運転手さんが言っていたが、我々は、頼んだまま猪苗代へ向かう。混んでいる電車へあわ

ただしく乗り、立ったまま、郡山へ行って新幹線に乗り換える。

.....コースタイム.....

2/11(土) 郡山 1:58 仮眠 6:00 山 6:40 → 二本松 7:05 7:50 (バス) → あだたら高原スキー場 .....  
◎630

五葉松平 ..... 峰の辻 ..... 振子沢 ..... くろがね小屋 ..... 鉄山 ..... 小屋  
12:30 13:45 15:00

[曇り時々雪]

2/12(日) 朝食 出発 ..... 鉄山 ... (ガスと風) ..... 指導標 ... (箕輪山方向わからず引き返す) ..... 避難小屋 .....  
8:00 7:10

指導標ポール2,3ヶ所 ..... 笹平 ... (トラバース気味) ... (精れる) ..... 横山温泉 (タクシー) →  
0:20 14:30 16:00  
◎5,500

→ 猪苗代駅 → 郡山 16:19

記 鈴木鉄也